

## 第 15 回最上川水系流域委員会 議事概要

日 時：平成 23 年 11 月 18 日（金） 14:00～16:20

場 所：山形テルサ 1F 大会議室

### ◆ 「最上川直轄河川改修事業」事業再評価

- ・ 流域全体では大きな変化がないかもしれないが、地域によっては、急速に高齢化が進んでいっていると実感している。
- ・ 災害時においては、高齢者や身障者などの災害弱者が一番被害を受けることとなることから災害弱者の視点（質的な部分）で効果が把握できるように検討していただきたい。
- ・ 社会資本整備とは、全ての国民が利益を享受できることが望まれており、ベネフィット（B）が小さくとも整備すべき事業もある。
- ・ 都市部に有利な現状の評価手法ではなく、国民の側にたった、国民中心の便益を考えた事業評価の手法を検討していただきたい。
- ・ 現在用いている、事業評価の手法については、個々の事業の継続か中止かを判断するのに使われているが、複数の事業の優先順位等を判断するまで至っていない。
- ・ 限られた予算の中で、事業の優先順位を B/C により判断できるよう検討していただきたい。
- ・ 近年、カワウによる捕食被害が拡大してきている。河川工事による、魚が隠れる場所（深みなどの）の減少も原因の一つである。
- ・ 今後河川工事を実施する際には、自然環境の保全や復元に配慮していただきたい。
- ・ オキナグサ（レッドデータブックやまがた 絶滅危惧 I B 類の希少植物）について、置賜地方の最上川本川堤防で自生しているのを見かけた。
- ・ このような（希少な）植物が河川の改修・維持工事などにより無くなってしまうことのないよう、保全・復元等に配慮していただきたい。

### ◆ 「最上川中流消流雪用水導入事業(清水地区)」事後評価

### ◆ 「最上川中流消流雪用水導入事業(岩ヶ袋地区)」事業再評価

- ・ 清水地区の整備前と整備後を見ると効果が出ているのがよく判る。
- ・ 同じ効果を出すのに、この仕組みと従来の機械を使用した場合で比較すると、この仕組みの方が、それほど費用をかけないで質のいい除雪ができると思う。流水が確保できる所であれば、こういう仕組みをもっと積極的に進めたほうがよいと思う。
- ・ 関連事業として町も側溝整備をしており、連携した事業がかなり効果的であると思う。
- ・ 単にこちらの事業の投資だけでなく、町の投資も含めた全体の便益、B/C がどうなったかも、さらに検討していく余地はあると思う。

#### ◆最上川水系河川整備計画（知事管理区間）の状況について

- ・ 野呂川について、地元では、耕作地が減らないように五分勾配案の要望があるようだが、所々に緩傾斜の箇所を設けるなど、住民に親しまれる川にしてほしい。
- ・ 山形県が整備するような小さな河川では、治水対策と同時に環境整備も兼ねており、まさに潤いを与えるような役割もあると思うので、そのことにも考慮して整備を進めてほしい。
- ・ 防災施設は単純なほうがよく、複雑だと二次災害も起こりかねない。河道を拡げるといような基本的なやり方が素直でよい。